

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高 槻 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	記述式に抵抗が少なく、無回答が少ない。 漢字や同義語、接続詞の使い方が、弱い。
	よくできた問題	適切なものを選択する、疑問に対する考えを書く類の問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	言語についての知識・理解が課題である。接続語を使って、2文に分けて書き直す問題が課題である。
算数	全体的な傾向や特徴など	基本的な技能が身に付いているため、文章問題に抵抗が少ない。 繰り返し問題に取り組んだ効果が、無回答がないことに表れている。 応用問題に、若干、抵抗がある。
	よくできた問題	量と測定の観点、また、棒グラフからわかることを選ぶ、図形の中から台形を選ぶ問題は、正答率が高い。
	努力が必要な問題	求めている式を選ぶ、どのような計算になるのかをまとめて書く等の問題では、課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣に関する項目では、自分で計画を立てて勉強をしているかどうか、学校の宿題をしているかどうか、1日あたりどのくらい勉強をしますか(60分以上行う割合)の問いに、「当てはまる」や「どちらかと言えば当てはまる」の割合は、高くなってきている。 ・学校での学習に関する項目では、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていますかの問いに、「当てはまる」や「どちらかと言えば当てはまる」は少なく、話し合い活動や書く活動の成果を実感できていない。 ・生活習慣に関する項目では、朝食を毎日食べていますか、毎日同じ時刻に寝ていますか、毎日同じ時刻に起きていますかの問いに、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の割合は、高い。 ・規範意識に関する項目では、学校のきまり・規則を守っていますかの問いに、高いところとそうでないところの割合に差がついてきている。 ・地域や社会への関心に関する項目では、今住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますかの問いに、「当てはまる」や「どちらかと言えば当てはまる」の割合がとても高い。 ・自尊心や夢、目標に関する項目では、自分にはよいところがあると思いますか、将来の夢や目標をもっていますか、人の役に立つ人間になりたいと思いますかの問いに、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の割合も高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる授業づくりの5つのPoint」の充実・徹底を図るために、日々の授業での確認や学校環境の生徒と統一に努める。 ・授業改善シートを活用し、授業支援(管理職・推進教員等)・授業改善(協議会・自己評価等)に努める。 ・朝自習、補充学習、算数・国語を主とした授業支援、専科指導による基礎学力の向上を図る。 ・学期末に児童アンケートをとり、児童の学びの実態(伸び・課題)を把握するように努める。 ・全教科の授業で必ず「話しあう活動」「書く活動」を取り入れることに取り組み、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・学力定着サポートシステム、フォローアップシートなどを活用することで、学力の定着・向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の学習内容を確認し、内容や量(家庭学習スタンダード)について、全教職員で共通理解をする。日々の児童への指導はもちろん、担任以外も、家庭学習の定着のためのサポートを徹底する。 ・児童や保護者を対象に「学期末アンケート」を実施し、児童の学びの実態を的確に把握する。 ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。児童だけでなく保護者にも協力していただきながら、家庭での学習習慣に対する意識付けを行う。児童が家庭学習に対して、見通しをもてるようにしていく。 ・家庭学習についてのスタンダード化を試みている。今後も改善しながら、継続する。
